

## 葉いもち防除の徹底を

今年の苗いもちの発生量はやや多いと予想されています。いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がります。箱処理剤の普及により被害は少なくなっていますが、防除の徹底を改めてお願いします。

### ●補植用余り苗は作業が終わったらただちに処分しましょう。

補植用余り苗は、ほ場にあるだけで、いもち病の伝染源となってしまいます、補植作業が終わったらただちに土中に埋没するなどして早期に処分して下さい！

◎葉いもち予防のための箱処理剤施用や側条施用を行っていない場合は、オリゼメート粒剤を散布しましょう。

箱処理剤等を施用した場合は散布の必要はありません。

※オリゼメート粒剤は6月15日頃（12～18日）の散布が目安です。（2kg/10a）

…もしほ場内でいもち病発生を見つけたら

持ち込み病斑やほ場の余り苗などからの伝染を早期に発見した場合は、予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤等）の茎葉散布を行います。また、**営農センターへもご相談ください。**

害虫の発生にも注意しましょう!!

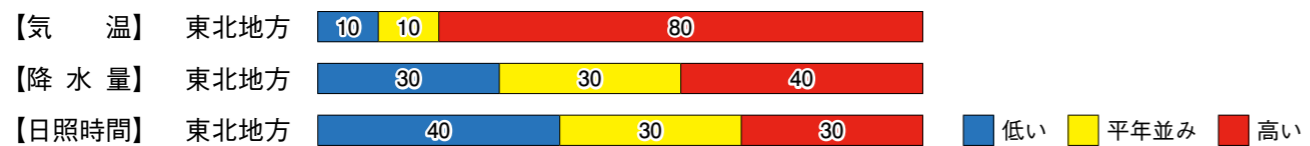
箱処理剤を使用していないほ場では稲をよく観察し、発生が認められる場合はトレボン剤などを散布して防除を行います。

そのほかの病害虫も局所的に発生する可能性がありますので、発生した場合は営農センターへ相談し有効な薬剤を適切に散布しましょう。

### ●天候にあわせた栽培管理を

「東北地方1ヶ月予報」 平成30年5月10日 仙台管区気象台発表

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



### ●異常気象に対する対策の確認を

冷害が予想される場合…

#### 1. 天気予報をこまめにチェック

冷害には「やませ」によるものと「西風」によるものと2種類のタイプがあります。天気予報をチェックし気温が低くなると予想される場合、生育初期は保温のため昼間は**止め水**とし、用水と水温の較差が最も小さくなる**早朝に入水することが有効**です。以後は止め水することで昼間の日射を水温、地温上昇に利用しましょう。

#### 2. 中干しは早めに！

幼穂形成期以降は低温の影響を直接受けるので、目標茎数の**8割**になったら、中干しをはじめ、7月上旬には中干しを終了しほ場にかん水をします。

#### 3. 深水管理で幼穂を保護しましょう

出穂の22～25日前から幼穂の形成は始まります。それ以降に**日平均気温20℃以下の低温や最低気温が17℃以下が予想**される場合は**水深10cm以上**の深水で幼穂の保護を図りましょう

また、減数分裂期（出穂10日前頃）に低温が予想される場合は**水深15cm以上**の深水にします。



No.3

# 農業技術情報

平成30年5月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



## 初期生育の確保と雑草防除の徹底

### 初期生育を確保するには水管理が重要!!

今年は数日ごとに天気が変わり、育苗管理や耕起、代かき作業に苦勞した方も多いと思います。田植え作業もいよいよ本格化、初期生育の確保と雑草防除の徹底をお願いします。

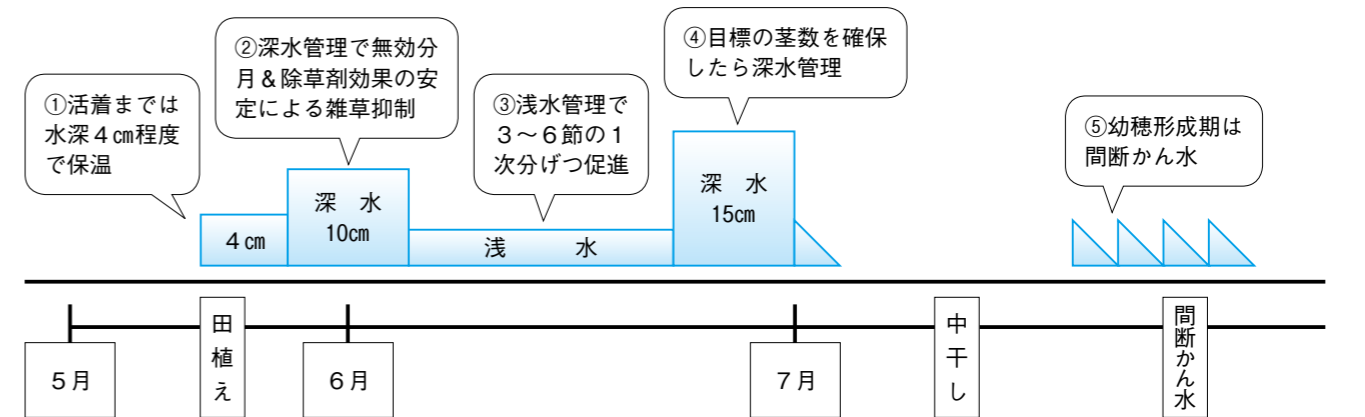
田植は活着を促進させるためできる限り日中の最高気温が20℃以上の日に行い、最高気温が15℃を下回るような日は極力作業を控えます。

田植え時の栽植密度は70株/坪を基本とすることで天候に左右されにくく、安定的に生育・収量を確保することができます。

### ●田植え後の水管理

- ① 稲が活着するまで概ね4～5日ほどかかります。田植え直後は活着するまで水深**4cm程度**とし、保温効果を高めるためできるだけ湛水状態を保ちます。
- ② その後、**10cm程度**の深水管理を一週間ほど行い、初めに発生する充実した穂になりにくい分けつを抑えます。また、除草剤はこの時期に散布します。
- ③ 深水管理を行った後は浅水管理を行うことで、日中と夜間の温度差を大きくし、穂になりやすい分けつの発生を促進させます。
- ④ 目標の茎数を確保したら無効分けつを抑えるため、**15cm程度**の深水管理を7日間ほど行い、その後中干しを行います。
- ⑤ 中干後は間断かん水とし、冷害の発生が予想される場合は深水管理を行い幼穂を保護します。

田植え後の水管理例



### ●側条施肥田植え機での施肥忘れの場合

条合わせなどで施肥を忘れた場合、田植え後1週間ほどで葉色に差が現れ始めます。確認後、ただちに施肥されていない部分に、硫酸やおばこ専用14-14-14等の**速効性肥料**を用いて、追肥を行いましょう。

## ● 除草剤を効果的に使用しましょう

今年も雑草の生育は早まると予想されます。雑草が残ってしまうと養分競合による生育不良や斑点米カメムシ類による被害により収量、品質が大きく低下してしまいます。

確実に除草剤を効かせ、雑草の無いきれいなほ場を目指します。

雑草は代かき直後から生育を開始します、初中期一発剤は**ノビエ2葉期**頃までに散布すると最も防除効果が高くなります。ノビエは代かき後、早ければ**約10日で2葉期**に達するため、除草剤の散布は代かき後**10日**を目安に行う必要があります。

また、代かきと田植えの間をできる限り、短くすることにより余裕をもって除草剤を散布することができます。

除草剤は散布後、土壌表面に処理層を作ることで効果を発揮します、除草剤を散布する際は水尻をしっかり止め、ほ場にはできる限り水がたつぷりと張ってある状態にします。

除草剤散布後は7日間は入水、落水を行わず田面に処理層をしっかりと作りましょう、水持ちの悪いほ場など、やむを得ず入水する場合は水口に板を置くなどして、ゆっくりと水を入れるようにします。

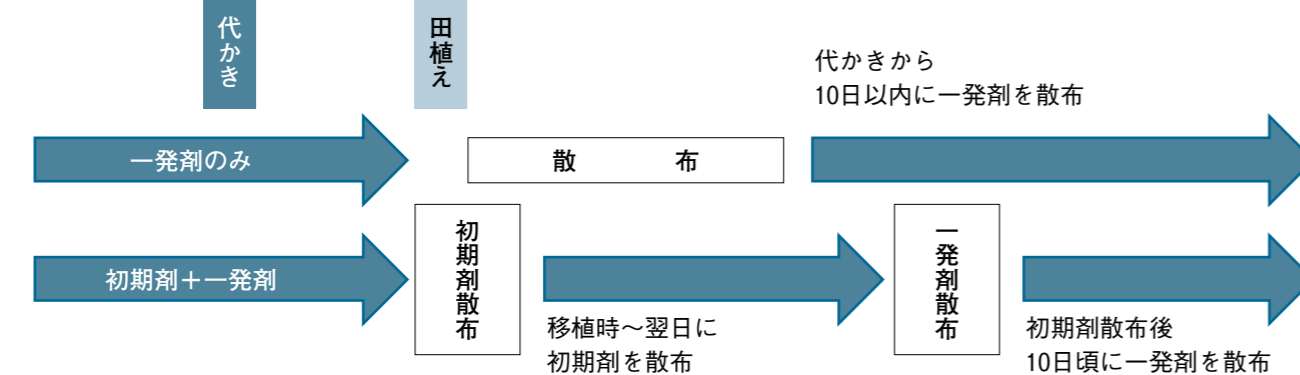
除草剤散布前にカナ（藻類、表層剥離等）が発生してしまった場合は、**水の入れ替え**や**モゲトン粒剤**を散布するなどして、カナを無くしてから散布します。

### 除草剤散布適期例と雑草葉齢進展の目安

・除草剤は草が見える前に散布することが基本です。  
・気温状況により、葉齢進展スピードが早まる場合があります。

防除可能葉齢	効果限界葉齢	防除困難葉齢
--------	--------	--------

代かき後日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ノビエ								1.0葉			1.5葉		2.0葉			2.5葉					3.0葉
ホタルイ												1.0葉									2.0葉
コナギ												1.0葉									2.0葉
アゼナ																					1.0葉



除草剤の成分には**得意な雑草**、**不得意な雑草**があります。次のページの表を参考に自分のほ場にどのような雑草が多いのかを考慮して散布する除草剤を選びましょう。

特に**ホタルイ等のカヤツリグサ科雑草**が多いほ場は、斑点米カメムシのすみかとなってしまい品質が低下する恐れがあるため、注意しましょう。

前年雑草の量が多かったほ場やオモダカ、クログワイなどの発生期間の長い雑草は、初中期一発剤だけでは対応が難しいので、**初期剤との体系処理**をオススメします。

それでも残草してしまった場合は、残った草種に合わせた有効な中後期剤を散布しましょう。

## ● 水稻除草剤一覧

### ● 初中期一発剤

	品名	使用時期	特徴
本田 初中 期一 発 剤	ウィナー 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	ノビエを長期間抑える、ホタルイにも効果が高い。
	カチボシ 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	ノビエを長期間抑える、コナギ、アゼナ類にも効果が高い。
	アッパレZ 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	多年生雑草を長期間抑える。 難防除のSU抵抗性雑草にも効果が高い。
	ベンケイ 1 * <sub>0</sub> 粒剤	植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	畦畔からの侵入雑草（イボクサやアシカキ）を抑える。 多年生雑草にも効果が高い。
	バッチリ 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	効果の発現が早く、幅広いSU抵抗性雑草に効果がある。
	コメット 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	ホタルイ、オモダカ、クログワイなどの抵抗性雑草に効果が高い。
カナ	メガゼータ 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	ノビエをはじめ抵抗性雑草にも効果が高い（2成分）
	トップガンGT 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	高葉齢の苗にも効果が高い、ホタルイにも効果が高い
	月光 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	ノビエを長期間抑える、塊茎のある雑草に効果が高い
カナ	モゲトン 1 * <sub>0</sub> 粒剤	収穫45日前まで	藻類、表層剥離の発生時に使用

### ● 豆つぶ、ジャンボ、液剤、フロアブル剤の使用前に…

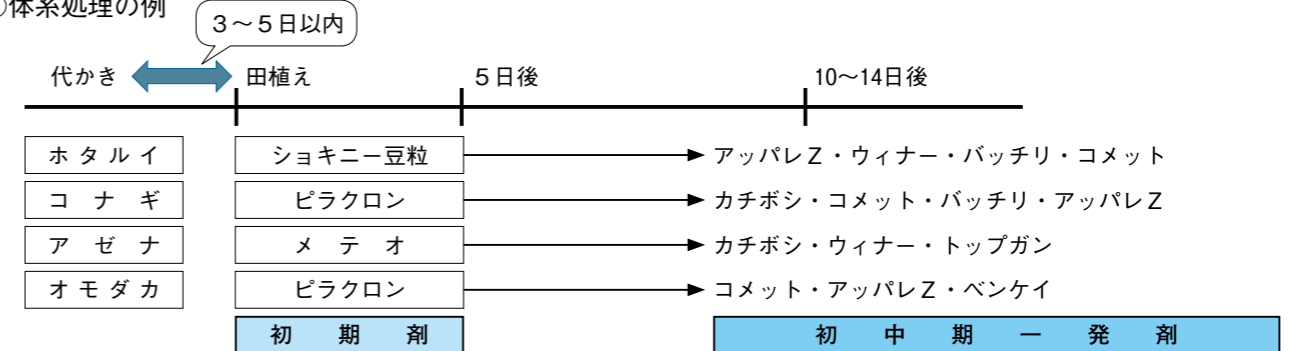
**注意** 以下のことを確認してから薬剤散布を行いましょう。

- ① 田面の均平がとられていることを確認しましょう。
- ② 必ず水深**5～7cm**で散布しましょう。隅の稲が水にくぐっても1～2日後には葉先が出るくらいに水を入れてから散布を行いましょう。
- ③ 風があるときは風上側に多めに散布し、風下側には少なめに散布して10aあたりの散布量を守りましよう。

### ● 草種別体系処理

各種抵抗性雑草が多いほ場では下記のような初期剤と**初中期一発剤**の体系処理をオススメします。自分のほ場にどのような雑草が多いかよく見て使用する剤を選択しましょう。

#### ○ 体系処理の例



一発剤散布後に雑草が発生した場合は有効な中後期剤を散布しましょう。

### ● 中後期剤

	品名	使用期間	特徴
本田 中 後 期 除 草 剤	マメットSM 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植後15～30日(ノビエ3.5葉期)	各種抵抗性雑草に効果あり、気温により薬害可能性あり
	クリンチャー 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期まで	ノビエ専用剤 1.5* <sub>0</sub> 散布でノビエ5葉まで効果がある
	クリンチャーEW	移植20日～ノビエ6葉期まで	ノビエ専用剤 展着剤加用 スポット処理可能
	クリンチャーME	移植15日～ノビエ5葉期まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布
	レグラス 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	多年生雑草に効果が高い。 無人ヘリによる散布、または湛水散布
	ヒエクリーン 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植15日～ノビエ4葉期まで	ノビエ専用剤 効果は遅効的だが残効性あり
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植15日～ノビエ4葉期まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布
	バサグラン粒剤・液剤	移植15～55日	広葉雑草専用 落水散布 スポット処理可能
	フォローアップ 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植15～ノビエ5葉期まで	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的
	アトトリ 1 * <sub>0</sub> 粒剤	移植20日～ノビエ4葉期まで	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的